

蛸み蛸み通信

（株）庭園設計事務所
〒193-0823 東京都
八王子市横川町 1096-3
TEL:042-622-8840

VOL.15

下草で庭に深み！ ～植生を考えた庭づくりの提案～

繰り返し品種改良され、ビビットで豊富な色彩を持つ一年草の花壇の楽しさ、美しさも素敵ではあるが、今回ご紹介するのは、日本古来の路傍の、ときには雑草などと呼ばれる花々。

また、ここ多摩地域の植生に合った下草を上手に使った庭をご紹介したい。

庭の片隅に咲くトリカブトの紫や、植生上も相性が良いとされている、



ウラシマソウ

ワレモコウの紅い穂と、下を向いて楚楚と薄紫の花を付けるツリガネニンジン、西洋の花の鮮やかさにはないものの、何か庭の奥深さと、和みを演出してくれています。

今回は季節がら、秋、それも晩秋の庭の景色ですが、同じ庭でも春になると梅の木の下枯葉の横に、可憐な節分草や奇妙な形のウラシマ草との突然の出合などは、ふつと思わず微笑んでしまう。こんな心憎い演出には、庭めぐりの楽しさも倍増。

皆様の庭の一角にも、何かの下草を植え、季節の足音を聞いては！



ワレモコウ

ツリガネニンジン

花と庭のイセ

”のことで、もと長崎丸山の遊女だったひと。

シーボルトは、医師である反面、名代のプラントハンターでもある。

シーボルト事件で本国である、オランダへ追放の折に数多くの日本の植物を持ち帰っているのです。

ギボウシや、このアジサイもそのひとつです。

シーボルトは、この女性をよほど愛していたとみえて、よくオオムという鳥に、口真似の練習に「オタケサン」と言わせているのもこの「お滝さん」であり、シーボルトがその邸宅で飼っていたオオムに呼ばせていたとのこと。

アジサイの学名に、その名を残し、オオムにも呼ばせていたとは、よほどの果報者。

最近、町の花屋さんの店頭にハイドランジアの名で色とりどりのアジサイが並び、これは逆輸入品で、シーボルト様々である。



ヤマアジサイ
(紅 くれない)

天声樹語

植物は、人間よりかなり敏感である。

節分草や彼岸花は、どこで季節を感じるのか、その時期になると決まって咲く。

先だってNHKのニュースで報じていたのだが、福島の原発の染量の高い地区の、モミの木に異変が見つかったそうだ。

普通、枝先が一本出るのだが、この地区のものには先端が二本出る個体が発見され、しかも染量の高くなる程、発生頻度が高くなるとの事。

放射性物質との関連は、科学的に証明されていないとの慎重な報道であり、小生も政治的な発言をするつもりは毛頭ないが、人間が進化の頂点にいるという妄想だけは、そろそろ捨てたほうが良いのでは・・・